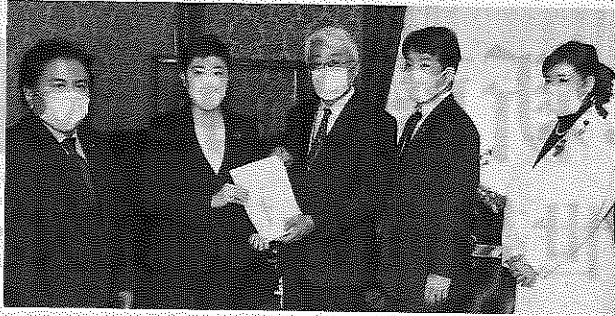


野党総務相不信任案

違法接待「究明に及び腰」

衆参3選挙へ攻防活発化



武田総務相に対する不信任案を提出する立憲民主党の辻元清美副代表(左から)と人目ら野党代表。31日午後、国会

立憲民主、共産、国民民主、社民の野党4党は31日午後、総務省幹部らへの違法接待を巡り、武田良太総務相に対する不信任決議案を衆院に提出した。放送通信行政がゆがめられた疑惑への「真相究明に及び腰」と武田氏を批判した。不信任案は4月1日の衆院本会議で採決。与党は反対多数で否決する方針だ。同月25日投票の衆参両院3選挙をにらみ、与野党の攻防が活発化してきた。立民の福山哲郎幹事長は3月31日、不信任案に対し「総務省への信頼を失墜させた責任は大きく、放送行政不信も一切払拭

武田氏は不信任に値しないとの認識を示した。提出後、記者団の取材に対し接待問題を改めて陳謝。「武田総務相には、徹底した調査をし、立て直しをしてもらいたい」と強調した。

立民の安住淳国対委員長は自民党の森山裕国対委員長と会談し、不信任案の提出方針を伝達。野党は31日午後、幹事長らが会談し、提出を最終確認した。

不信任案に対し加藤勝信官房長官は記者会見で「武田氏は自身の会食問題についても自ら適切に判断、対処している」と反論。自民党の下村博文政調会長は会見で「正々堂々と否決する」とした。公明党の竹内譲政調会長も会見で「武田氏は総務行政に真摯(しんし)に取り組み、信頼を取り戻そうと努力している」と訴えた。

接待問題では、首相の長男正剛氏が勤める放送事業会社「東北新社」から谷脇康彦前総務審議官や、総務省在籍時の山田真貴子前内閣広報官が接待を受けていたことが確認された。谷脇氏は懲戒処分を受けた上で辞職。山田氏も内閣広報官を辞職した。不信任案では、一連の接待問題のほか、武田氏が国会で答弁しようとした総務省幹部に「記憶がないと言え」と指示した疑いまで浮上したと指摘。武田氏自身がN.T.T幹部との会食に同席しながら、見苦しい言い逃れを繰り返したとして「総務省を指揮監督する資格はない」と断じた。